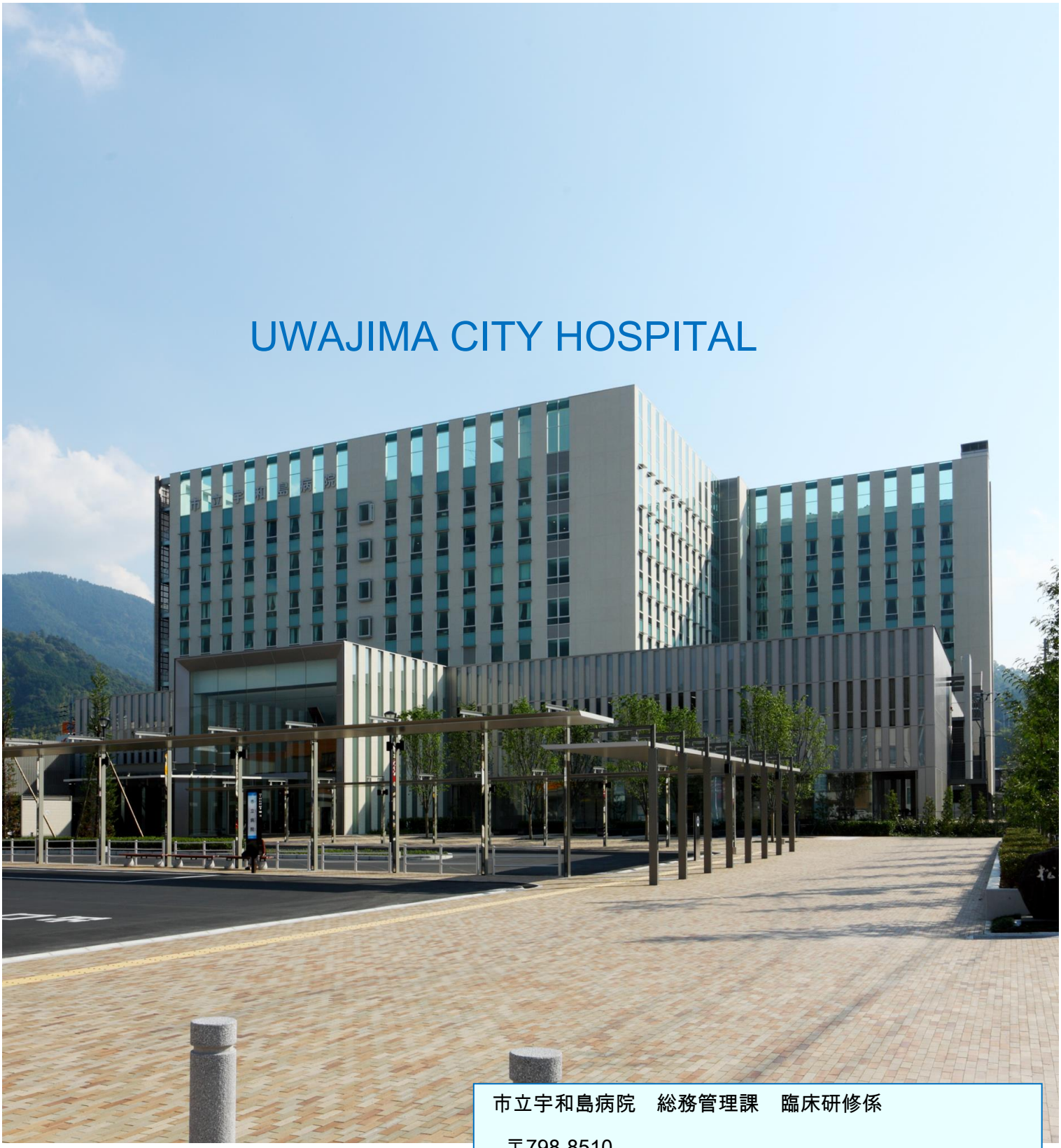
2023 年度

市立宇和島病院外科専門研修プログラム



市立宇和島病院　総務管理課　臨床研修係

〒798-8510

愛媛県宇和島市御殿町 1 番 1 号

TEL 0895-25-1111　/　FAX 0895-25-5334

E-mail　uwajima-hp@city.uwajima.lg.jp

2023/4/1

市立宇和島病院外科専門研修プログラム

１．　市立宇和島病院外科専門研修プログラムについて

市立宇和島病院外科専門研修プログラムの目的と使命は以下の５点です。

１）専攻医が医師として必要な基本的診療能力を修得すること

２）専攻医が外科領域の専門的診療能力を修得すること

３）上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること

４）外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること

５）外科領域全般からサブスペシャルティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科）またはそれに準じた外科関連領域（救急領域等）の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること

２．　研修プログラムの施設群

市立宇和島病院と連携施設（2 施設）により専門研修施設群を構成します。
本専門研修施設群では７名の専門研修指導医が専攻医を指導します。

専門研修基幹施設

名称	都道府県	1:消化器外科, 2:心臓血管科, 3:呼吸器外科, 4:小児外科, 5:乳腺内分泌外科, 6:その他（救急含む）	統括責任者名
市立宇和島病院	愛媛県	1,2,3,5,6	中村　太郎

専門研修連携施設

No.				連携施設担当者名
1	西予市立西予市民病院	愛媛県	1,5,6	末光　浩也
2	愛媛大学医学部附属病院	愛媛県	1,2,3,4,5,6	高田　泰次

専門研修施設紹介

《市立宇和島病院》

市立宇和島病院は、1910 年（明治 43 年）公立病院を希望する住民の要請で宇和島町立病院として内科、外科、産婦人科、耳鼻咽喉科および眼科の 5 科で開設されました。その後、宇和島の市制実施に伴い市立宇和島病院となり、診療科を順次増設し四国西南地域の総合病院として地域の医療を担っております。当院は愛媛県南予に立地しており、宇和島医療圏における中核病院として位置付けられています。また「南予救命救急センター」を併設していることから、当院が属する「宇和島医療圏」をはじめ、同県の「八幡浜・大洲医療圏」や高知県の「幡多医療圏」の一部からも救急患者が搬送されるため、研修医、専攻医は豊富な臨床経験を積むことが出来ます。現施設は平成 21 年 9 月に全館完成し、医師にとっては高度医療を提供できる環境が更に充実されました。

外科は愛媛県南予地区の基幹病院として、ほぼすべての外科治療の対象となる疾患を診療しており、救急症例に対しても「断らない」「可能な限り早急に対応する」をモットーに積極的に受け入れております。また、地域がん拠点病院として悪性腫瘍に対する標準的外科治療に加え、内視鏡外科などの先進的治療も積極的に取り入れております。2021 年の年間手術数は 895 件（外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科含む)、専攻医の年間手術数は 200 例以上（術者 100 例以上）と多種多様な手術を経験できます。また外科は手術治療が中心となりますが、悪性疾患に対する入院、外来での化学療法、緩和医療も積極的に行っております。

《西予市立西予市民病院》

西予市の地域医療を担う 154 床の中核病院です。外科専門研修指導医 3 名が勤務し、外科診療に必要な基礎知識・病態・検査・処置などを学び、臨床応用できるよう研修し、また医療・保健・福祉等との地域連携など地域医療の研修を行います。

《愛媛大学医学部附属病院》

愛媛大学医学部附属病院では、外科 3 講座が協力して一つの外科専門研修プログラムを運営し、消化管、肝胆膵、心臓血管、呼吸器、小児、乳腺など専門医に求められるすべての外科診療領域において幅広い効率的な研修が可能です。特に大学病院の特徴として、先進的で高度な外科治療も経験できるとともに、カンファレンスや学会発表、臨床研究を通じて外科医に求められる科学的思考能力を獲得できるよう丁寧な指導を受けることが出来ます。

３． 専攻医の受け入れ数について（外科専門研修プログラム整備基準 5.5 参照）

本専門研修施設群の 3 年間 NCD 登録数は約 3000 例で、専門研修指導医は 7 名となっており、専攻医定員数は 3 名です。

４． 外科専門研修について

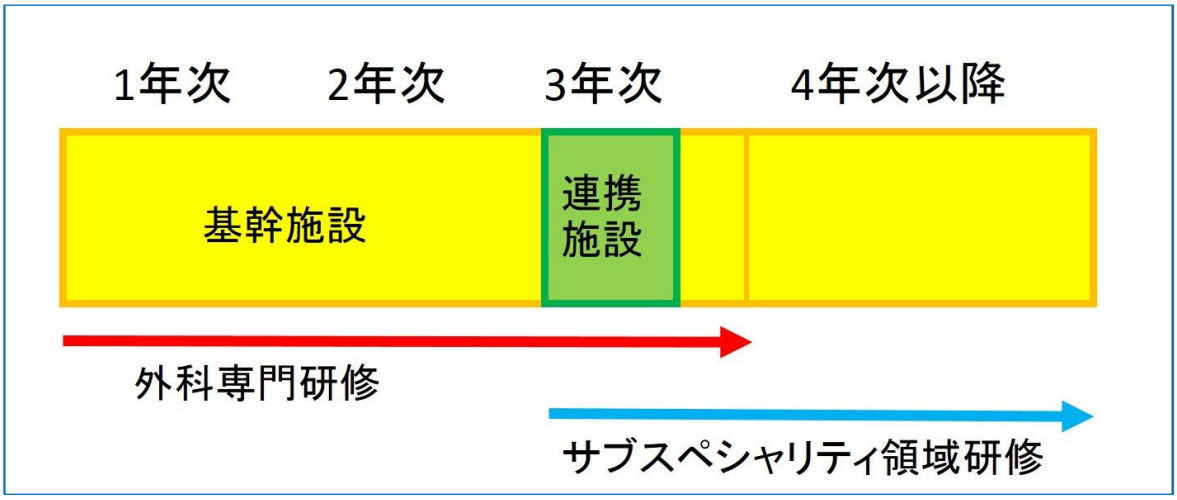
１）外科専門医は初期臨床研修修了後、3 年（以上）の専門研修で育成されます。

- 3 年間の専門研修期間中、基幹施設および連携施設で研修を行います。
- 専門研修の 3 年間の 1 年目、2 年目、3 年目には、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度と外科専門研修プログラム整備基準にもとづいた外科専門医に求められる知識・技術の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医としての実力をつけていくように配慮します。具体的な評価方法は後の項目で示します。
- サブスペシャルティ領域によっては外科専門研修を修了し、外科専門医資格を習得した年の年度初めに遡ってサブスペシャルティ領域専門研修の開始と認める場合があります。サブスペシャルティ領域連動型については現時点では未定です。
- 研修プログラムの修了判定には規定の経験症例数が必要です。（専攻医研修マニュアル-経験目標２-を参照）
- 初期臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験した症例（NCD に登録されていることが必須）は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限定して、手術症例数に加算することができます。（外科専門研修プログラム整備基準 2.3.3 参照）

２）年次毎の専門研修計画

- 専攻医の研修は、毎年の達成目標と達成度を評価しながら進められます。以下に年次毎の研修内容・修得目標の目安を示します。なお、修得すべき専門知識や技能は専攻医研修マニュアルを参照してください。
- 専門研修１年目では、基本的診療能力および外科基本的知識と技能の修得を目標とします。専攻医は定期的に開催されるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーの参加、e-learning や書籍や論文などの通読、日本外科学会が用意しているビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の修得を図ります。
- 専門研修２年目では、基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。専攻医はさらに学会・研究会への参加などを通して専門知識・技能の修得を図ります。
- 専門研修３年目では、チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、外科の実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。カリキュラムを修得したと認められる専攻医には、積極的にサブスペシャルティ領域専門医取得に向けた技能研修へ進みます。

下図に市立宇和島病院外科研修プログラムを示します。1,2 年目には基幹施設での研修を行い、3 年目には連携施設での研修も行います。プログラムの研修期間は 3 年間としていますが、修得が不十分な場合は修得できるまで期間を延長することになります（未修了）。一方で、カリキュラムの技能を修得したと認められた専攻医には、積極的にサブスペシャルティ領域専門医取得に向けた技能教育を開始することができます。



・専門研修 1,2 年目

基幹施設にて研修を行います。

一般外科/救急/消化器/心・血管/呼吸器/乳腺・内分泌

経験症例 200 例/年 以上 （術者 100 例/年 以上）

・専門研修 3 年目

原則として連携施設での研修を 1 箇所につき 3 か月以上行います。

（サブスペシャルティ領域などの専門医連動コース）

市立宇和島病院でサブスペシャルティ領域（消化器外科，心臓・血管外科，呼吸器外科，乳腺外科）または外科関連領域（救急など）の専門研修を開始します。

３）研修の週間計画および年間計画基幹施設（市立宇和島病院）

	月	火	水	木	金	土	日
8:00-8:30　朝カンファレンス	○	○	○	○	○		
8:30-17:15　病棟業務	○	○	○	○	○		
9:00-　手術	○	○	○	○	○		
9:30-11:00　病棟回診	○	○	○	○	○	○	○
8:30-12:30　午前外来	○	○	○	○	○		
7:30-8:00　消化器合同カンファレンス					○		
12:45-13:30　抄読会、M&M カンファレンス				○			
17:30-19:00　術前カンファレンス		○					

連携施設（西予市立西予市民病院）

	月	火	水	木	金	土	日
17：30-18：00 勉強会		○					
9：00-11：00 病棟業務			○		○		
8：45-12：00 午前外来	○	○		○			
13：30-手術	○	○		○			
13：00-13：30 地域医療カンファレンス		○					
13：00-13：30 病棟カンファレンス	○						

連携施設（愛媛大学医学部附属病院）

	月	火	水	木	金	土	日
7:30～9:00　カンファレンス	○	○	○	○			
8:30～17:15　手術	○	○	○	○	○		
8:30～9:00　朝回診	○	○	○	○	○		
8:30～17:00　病棟業務	○	○	○	○	○		
8:30～11:00　病棟業務						○	○
8:30～12:30　午前外来	○	○	○	○	○		
14:00～17:00　午後外来	○	○	○	○	○		
18:00～19:00　内科外科合同カンファレンス（隔週）		○		○			
18:00～19:00　乳腺病理カンファレンス（月１回）	○						
18:00～19:00　乳腺治療カンファレンス（月１回）		○					
18:00～19:00　家族性腫瘍カンファレンス（月１回）	○						

研修プログラムに関連した全体行事の年間スケジュール

月	全体行事予定
４	・ 外科専門研修開始。専攻医および指導医に提出用資料の配布 ・ 日本外科学会参加（2，3 年次発表）
５	・ 研修修了者：専門医認定審査申請・提出
８	・ 研修修了者：専門医認定審査（筆記試験）
１１	・ 臨床外科学会参加（発表）
１２	・ 研修プログラム管理委員会（専攻医の選考結果報告　随時開催）
２	・ 専攻医：研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙の作成（年次報告）（書類は翌月に提出） ・ 専攻医：研修プログラム評価報告用紙の作成（書類は翌月に提出） ・ 指導医・指導責任者：指導実績報告用紙の作成（書類は翌月に提出）

3	・その年度の研修終了 ・専攻医: その年度の研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙を提出 ・指導医・指導責任者：前年度の指導実績報告用紙の提出 ・研修プログラム管理委員会開催（年度評価）

５．　専攻医の到達目標（修得すべき知識・技能・態度など）

- 専攻医研修マニュアルの到達目標１（専門知識)、到達目標２（専門技能)、到達目標３（学問的姿勢)、到達目標４（倫理性、社会性など）を参照してください。

６．　各種カンファレンスなどによる知識・技能の修得（専攻医研修マニュアル-到達目標３-参照）

- 基幹施設および連携施設それぞれにおいて医師および看護スタッフによる治療および管理方針の症例検討会を行い、専攻医は積極的に意見を述べ、同僚の意見を聴くことにより、具体的な治療と管理の論理を学びます。
- 消化器合同カンファレンス：手術症例を中心に消化器内科、放射線科とともに術前画像診断を検討し、切除検体の病理診断と対比いたします。
- Cancer Board：複数の臓器に広がる進行・再発例や、重症の内科合併症を有する症例、非常に稀で標準治療がない症例などの治療方針決定について、内科など関連診療科、病理部、放射線科、緩和、看護スタッフなどによる合同カンファレンスを行います。
- 各施設において抄読会や勉強会を実施します。専攻医は最新のガイドラインを参照するとともにインターネットなどによる情報検索を行います。
- Dry Box によるトレーニングや手術 DVD などを用いて積極的に手術手技を学びます。
- 日本外科学会の学術集会（特に教育プログラム)、e-learning、その他各種研修セミナーや各病院内で実施されるこれらの講習会などで下記の事柄を学びます。
  - ✧　標準的医療および今後期待される先進的医療
  - ✧　医療倫理、医療安全、院内感染対策

７．　学問的姿勢について専攻医は、医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められます。患者の日常的診療から浮かび上がるクリニカルクエスチョンを日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決し得

ない問題は臨床研究に自ら参加、もしくは企画する事で解決しようとする姿勢を身につけます。学会には積極的に参加し、基礎的あるいは臨床的研究成果を発表します。さらにえられた成果は論文として発表し、公に広めるとともに批評を受ける姿勢を身につけます。

研修期間中に以下の要件を満たす必要があります。（専攻医研修マニュアル到達目標３-参照）

- 日本外科学会定期学術集会に１回以上参加
- 指定の学術集会や学術出版物に、筆頭者として症例報告や臨床研究の結果を発表

８．　医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性などについて（専攻医研修マニュアル-到達目標３-参照）

医師として求められるコアコンピテンシーには態度、倫理性、社会性などが含まれています。内容を具体的に示します。

１）　医師としての責務を自律的に果たし信頼されること（プロフェッショナリズム）

- 医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につけます。

２）　患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること

- 患者の社会的・遺伝学的背景もふまえ患者ごとに的確な医療を目指します。
- 医療安全の重要性を理解し事故防止、事故後の対応をマニュアルに沿って実践します。

３）　臨床の現場から学ぶ態度を修得すること

- 臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につけます。

４）　チーム医療の一員として行動すること

- チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動します。
- 的確なコンサルテーションを実践します。
- 他のメディカルスタッフと協調して診療にあたります。

５）　後輩医師に教育・指導を行うこと

- 自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように学生や初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに受け持ち患者を担当し、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導を担います。

６）　保健医療や主たる医療法規を理解し、遵守すること

- 健康保険制度を理解し保健医療をメディカルスタッフと協調し実践します。
- 医師法・医療法、健康保険法、国民健康保険法、高齢者の医療の確保に関する法律を理解します。
- 診断書、証明書が記載できます。

９． 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

１）施設群による研修

本研修プログラムでは市立宇和島病院を基幹施設とし、地域の連携施設とともに病院施設群を構成してします。専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります。これは専攻医が専門医取得に必要な経験を積むことに大変有効です。基幹病院だけの研修では稀な疾患や治療困難例が中心となり common diseases の経験が不十分となります。この点、地域の連携病院で多彩な症例を多数経験することで医師としての基本的な力を獲得します。このような理由から施設群内の複数の施設で研修を行うことが非常に大切です。また指導内容や経験症例数に不公平が無いように十分配慮します。

施設群における研修の順序、期間等については、専攻医数や個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、市立宇和島病院外科専門研修プログラム管理委員会が決定します。

２）地域医療の経験（専攻医研修マニュアル-経験目標 3-参照）

地域の連携病院では責任を持って多くの症例を経験することができます。また、地域医療における病診・病診連携、地域包括ケア、在宅医療などの意義について学ぶことができます。以下に本研修プログラムにおける地域医療についてまとめます。

- 本研修プログラムの連携施設には、その地域における地域医療の拠点となっている施設（地域中核病院、地域中小病院）が入っています。そのため、連携施設での研修中に以下の地域医療（過疎地域も含む）の研修が可能です。
- 地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方について理解して実践します。
- 消化器がん患者の緩和ケアなど、ADL の低下した患者に対して、在宅医療や緩和ケア専門施設などを活用した医療を立案します。
- 市立宇和島病院、西予市立西予市民病院、愛媛大学附属病院とのケース・カンファレンスを行う準備があります。

１０．　専門研修の評価について（専攻医研修マニュアル-VI-参照）

専門研修中の専攻医と指導医の相互評価は施設群による研修とともに専門研修プログラムの根幹となるものです。専門研修の１年目、2 年目、3 年目のそれぞれに、コアコンピテンシーと外科専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価します。このことにより、基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮しています。専攻医研修マニュアル VI を参照してください。

１１．　専門研修プログラム管理委員会について（外科専門研修プログラム整備基準 6.4 参照）

基幹施設である市立宇和島病院には、専門研修プログラム管理委員会と、専門研修プログラム統括責任者を置きます。連携施設群には、専門研修プログラム連携施設担当者と専門研修プログラム委員会組織が置かれます。市立宇和島病院外科専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者（委員長)、副委員長、事務局代表者、外科の 4 つの専門分野（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科）の研修指導責任者、および連携施設担当委員などで構成されます。研修プログラムの改善へ向けての会議には専門医取得直後の若手医師代表が加わります。専門研修プログラム管理委員会は、専攻医および専門研修プログラム全般の管理と、専門研修プログラムの継続的改良を行います。

１２．　専攻医の就業環境について

１）　専門研修基幹施設および連携施設の外科責任者は専攻医の労働環境改善に努めます。

２）　専門研修プログラム統括責任者または専門研修指導医は専攻医のメンタルヘルスに配慮します。

３）　専攻医の勤務時間，当直，給与，休日は労働基準法に準じて各専門研修基幹施設，各専門研修連携施設の施設規定に従います。

１３．　修了判定について

3 年間の研修期間における年次毎の評価表および 3 年間の実地経験目録にもとづいて、知識・技能・態度が専門医試験を受けるのにふさわしいものであるかどうか、症例経験数が日本専門医機構の外科領域研修委員会が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年(3 年目あるいはそれ以後)の 3 月末に研修プログラム統括責任者または研修連携施設担当者が研修プログラム管理委員会において評価し、研修プログラム統括責任者が修了の判定をします。

１４．　外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件専攻医研修マニュアル VIII を参照してください。

１５．　専門研修実績記録システム、マニュアル等について研修実績および評価の記録

外科学会のホームページにある書式（専攻医研修マニュアル、研修目標達成度評価報告用紙，専攻医研修実績記録，専攻医指導評価記録）を用いて、専攻医は研修実績（ＮＣＤ登録）を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受けます。総括的評価は外科専門研修プログラム整備基準に沿って、少なくとも年 1 回行います。

市立宇和島病院にて、専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管します。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管します。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導者マニュアルを用います。

◉専攻医研修マニュアル

別紙「専攻医研修マニュアル」参照。

◉指導者マニュアル

別紙「指導医マニュアル」参照。

◉専攻医研修実績記録フォーマット

「専攻医研修実績記録」に研修実績を記録し、手術症例はＮＣＤに登録します。

◉指導医による指導とフィードバックの記録

「専攻医研修実績記録」に指導医による形成的評価を記録します。

１６．　専攻医の採用と修了方法

市立宇和島病院外科専門研修プログラム管理委員会は、日本専門医機構の募集スケジュールに従い、概ね 11 月頃から随時説明を行い外科専攻医を募集します。プログラムへの応募者は、当院が特別に定める場合を除き、原則 12 月末頃までに研修プログラム責任者宛に所定の形式の『市立宇和島病院外科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出してください。

申請書は(1) 市立宇和島病院総務管理課研修担当者（総務管理課 臨床研修係担当 TEL 0895-25-1111）に問い合わせ、(2) e-mail で問い合わせ（ｒｉｎｓｈｏ-ｈｐ@@city.uwajima.lg.jp)、のいずれの方法でも入手可能です。

概ね 11 月頃から書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および選考結果については、原則として 3 月の市立宇和島病院外科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

１７．研修開始届

研修を開始した専攻医は、各年度の 5 月末までに以下の専攻医氏名報告書を日本外科学会事務局および外科研修委員会に提出します。

・専攻医の氏名と医籍登録番号、日本外科学会会員番号、専攻医の卒業年度
・専攻医の履歴書（様式 15-3 号）
・専攻医の初期研修修了証

修了要件
専攻医研修マニュアル参照

（市立宇和島病院）